

令和元年度第73回栃木県芸術祭美術展審査結果（日本画部門）

○応募総数	49点	[ 46点]	
○入賞点数	9点	[ 9点]	
○入選点数	35点	[ 34点]	* [ ]内は昨年度

（審査寸評）

昨年を上回る出品数49点の中から44点の作品を選出し、その中から芸術祭賞1点、準芸術祭賞2点、芸術祭奨励賞5点、U25賞1点を投票により決定した。

U25賞は若年層の芸術家の創作活動を奨励するために贈られる賞であるが、今回は更に、芸術祭賞、準芸術祭賞の3名のうち2名が25歳以下という結果となった。若い世代の入賞は大変嬉しいもの。更なる若い世代の台頭を期待する。

○芸術祭賞「巣箱」

自然の草木を柔らかな色調で表現している。自然の樹々からこんなにも豊かな色彩を掴み取れる作者を羨ましく思ってしまう。巣箱というタイトルに引き寄せられながら画面に近づくと、小禽の代わりに間借りしているかわいいお客さんが巣箱の中にいた。来春まで棲みつくつもりだろうか。作者の優しい視点が伺える。

○準芸術祭賞「夜の遊園地」

真昼の主役を失った遊園地はどこか悲しそうな寂しさを感じる。寂しさは時に美しさに転じることも。暗さが美しい作品である。

○準芸術祭賞「朝ぼらけ」

小舟の船着場だろうか？釣り人の腰掛け場だろうか？木の櫓が川の水面に映り、清涼感ある風がフーッと吹いてくるような作品である。

○U25賞「夢の中で」

眠る子供の夢の世界が画面いっぱいに描かれ、この子の夢多き将来を暗示しているかのよう。大きな帆船に乗って世界に羽ばたいてほしいという作者の願望も盛り込まれているのだろうか。

〔入賞者名及び入賞作品名〕

○芸術祭賞

さいとうあきら  
齋藤晶

(東京都国分寺市)

すばこ  
「巣箱」

○準芸術祭賞

こばやししゅん  
小林駿

(大田原市)

よるゆうえんち  
「夜の遊園地」

えんどうさおり  
遠藤沙織

(足利市)

あさ  
「朝ぼらけ」

○芸術祭奨励賞

すずきまさいち  
鈴木正一

(那珂川町)

つちなかしろひかり  
「土の中の白い光」

やまぐちあきら  
山口昭

(宇都宮市)

はつね  
「初音」

かわだめぐみ  
川田恵

(那珂川町)

いまつづひ  
「今に続く日」

あおきみさを  
青木操

(宇都宮市)

なか  
「そよぐ中に」

ながたけかずこ  
長竹和子

(宇都宮市)

ついおく  
「追憶」

○U25賞

きのしただいき  
木下大輝

(新潟県新潟市)

ゆめなか  
「夢の中で」

## 令和元年度第73回栃木県芸術祭美術展審査結果（写真部門）

○応募総数	334点	[ 289点]	
○入賞点数	13点	[ 13点]	
○入選点数	167点	[ 167点]	* [ ]内は昨年度

### （審査寸評）

昨今、街で人の撮影をすると、肖像権の問題など、個人情報保護の観点から、撮影できる環境が少なくなっている。また、各地の撮影地には多くの人が詰め掛け、場所取りも大変で、仮にいい場所が取れても、そこで撮影されたものは月並みな、単に綺麗などこかで見たことがある作品にしかない。

こうした厳しい状況の中でも、今回の応募作品には、本当はもう少し横から撮影したかったのに、この撮影地だと撮れなかったんだろうとか、顔で人物が特定できないように、後ろ姿のシルエットにしたんだろうとか、努力されたと思われるものが多数あった。

それでも、少しでもオリジナリティを求めて努力されているものが多かったのが印象的だ。応募点数も昨年より増えているが、芸術である以上、オンリーワンの新しい写真を探す活動が続けることで、ご自身もそして観る側も、アートを通じて元気になって欲しい。

### ○芸術祭賞「人馬一体」

那須町芦野のお田植え祭りでの一コマだろうか。緑が白くなるなど、赤外写真の効果を画面に与え、印象的な写真に仕上げている。実際には馬が田を耕すなどは、かつてもなかったのかもしれないが、地域の田に対する意識などがよく伝わってくるように思う。田んぼのない地域の人が見たら、なんとも不思議な光景だし、広大な地域に生きる人には、驚くような小ささと映るだろう。こうした地域を代表するイメージということもアートには大事な側面だと思う。

### ○準芸術祭賞「春の誘惑」

日本人は桜好きで、桜の時期を心待ちにしている人も多い。時代を遡って考えると、桜に対する印象や意味合いも、時代とともに、大きく変わってきていると思う。こうした歴史という点で桜を見ていくと、今の桜の位置関係というか、人々の思いを映し出す象徴としての桜が、よく見えてくると思う。その証拠に、桜を撮影している人の気持ちが、今を生きる日本人には、よく共感できるからだ。今を描いた一枚だと思う。

### ○準芸術祭賞「闘う農夫」

渡良瀬遊水地、ヨシ焼きのカットだろうか。そもそも、ヨシ自体は素材として使われなくなっているので、こうした光景も、文化として残していくという側面以外では、なかなか目にする機会が少なくなっているのではないだろうか。しかし、こうしたヨシ焼きの文化というか、香りと言っていていいかもしれないが、どこか懐かしい匂いのようなものが伝わってくる感じがする。それでいて、やっぱり今の人の感覚で撮影されているのがよくわかる一枚だ。

[入賞者名及び入賞作品名]

○芸術祭賞

こ ぎか くくに えい  
小 坂 國 榮 (宇都宮市)

じんばいったい  
「人馬一体」

○準芸術祭賞

ゆき た のぶ たか  
雪 田 信 隆 (宇都宮市)

はる ゆうわく  
「春の誘惑」

たか いわ しげ お  
高 岩 重 夫 (小山市)

たたか のうふ  
「闘う農夫」

○芸術祭奨励賞

ます かわ やす のり  
増 川 保 紀 (宇都宮市)

とうげんきょう  
「桃源郷」

いで い えい じ  
出 井 栄 治 (足利市)

とう きゅう  
「闘牛」

すず き みどり  
鈴 木 みどり (小山市)

ほほえ  
「微笑み」

い とう じん いち  
伊 藤 仁 一 (壬生町)

「おいしいかな？」

かわ むら たか こ  
川 村 孝 子 (宇都宮市)

まちあわせ  
「待ち合わせ」

さ とう はる お  
佐 藤 治 男 (真岡市)

そうふう  
「爽風」

いがらし かず じ  
五十嵐 一 二 (日光市)

ろじょうが  
「路上画家」

ほん だ みちこ  
本 田 みち子 (宇都宮市)

そうかい  
「走快に」

みず もり ひで お  
水 森 英 雄 (野木町)

かぜ えが え  
「風が描いた絵」

お ばな ゆき こ  
尾 花 由紀子 (栃木市)

うみ い  
「海に生きる」

○U25賞

該当なし